

# 令和3年度鳥取県教育研究大会（兼GIGAスクールフェア・冬）の開催概要について

令和4年3月19日  
小中学校課

## 1 趣旨

県教育委員会は、例年、鳥取県の「教育に関する大綱」に掲げる取組方針を踏まえ、全体講演、各校種における実践事例の発表等とおして、県内の幼児・児童・生徒の学びの質の向上、豊かな人間性や社会性の育成、安全で安心して通える園（所）、学校づくりの一層の推進を図ることを目的に、鳥取県教育研究大会を実施している。令和3年度は、今後の鳥取県のGIGAスクール構想の推進に向けた取組を示すため、「GIGAスクールフェア・冬」と兼ねて、参集型とオンライン配信型のハイブリット形式で実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大及び学校の業務ひっ迫状況を踏まえ、動画配信による実施とした。

### 【目的】

GIGAスクール元年の令和3年度の推進成果を共有するとともに、定着・充実へシフトする次年度以降の意識高揚を図るとともに、授業改善につなげる機会とする。

## 2 視聴期間

令和4年2月14日（月）から令和4年3月31日（木）まで

## 3 視聴者（令和4年3月10日現在）

のべ358名（小・中・義務教育学校、高等学校、特別支援学校の教職員、市町村（学校組合）教育委員会の行政関係者、幼稚園・保育所・認定こども園の保育者及び保育担当課の行政関係者）

（令和2年度 動画配信による実施 視聴者 1094名）

（令和元年度までの参加者 R1：218名、H30：333名、H29：255名、H28：270名）

## 4 内容

### （1）鳥取県教育委員会教育長あいさつ

【挨拶】鳥取県教育委員会 足羽 英樹 教育長

### （2）行政説明

【説明者】鳥取県教育委員会事務局 GIGAスクール推進課 横山 順一 課長

#### 【概要】

2021年の国の動きとして「GIGAスクール構想の推進（ICT環境整備と活用支援の充実）」と「中央教育審議会答申（『令和の日本型学校教育』の構築を目指して）」を紹介。その後、県の動きを「学校教育情報化推進計画」の柱に沿って具体的に説明した後、成果と課題を踏まえて、次年度は、ICTを活用した教育の日常化への学校支援や、発達段階に応じた情報活用能力を育成するための授業づくりを行うなどの方向性を示した。最後に、子どもたちの学びを止めないため、臨時休業時の持ち帰りなど1人1台端末の積極的な活用を行うことを確認した。

### （3）特別講演

<テーマ>「GIGAスクール構想の次のステージ ～基礎的な活用から効果的な活用へ～」

【説明者】鳥取県ICT活用教育アドバイザー 西田 光昭 氏

#### 【概要】

GIGAスクール構想を推進していく上で、鳥取県は情報発信・安心・信頼・協力を大切にしていることやICT活用のはじめの一步をSTEP0（ステップゼロ）と位置付け、GIGAに慣れることから始まっていること、クラスルームやICT活用ハンドブックで学び方をつなげていること等、本県の取組のよさを示していただいた。また、初期指導は1人1台端末の学習をやってみて、慣れることが活用することにつながることで、初期指導では学び方を学ぶことが重要であること等を御教授いただいた。GIGAスクール構想の次のステージに向けて、量から質への転換が必要であり、1人1台端末を文房具のような存在にすること、学び方を学び、自分で学べることにつながることを、社会で起きていることを経験し、解決する術を学ぶことが必要であり、これらが社会に出た時に役立つ力につながることをご示唆いただいた。



#### (4) 研究発表

＜概要＞鳥取県教育研修センターでは、鳥取県の教育課題解決に向けた実践研究を行い、所属校や地域における取組を推進するとともに、将来、鳥取県や地域の中核になる人材育成を図るため、長期研修制度を設けている。本年度は4名の長期研修生が、県の教育課題の1つであるICT活用に関する実践研究等に取り組み、それぞれの研究成果の発表を行った。

##### 【長期研修生及び研究テーマ】

氏名	所属	研究テーマ
河上 和寿	鳥取市立南中学校	ICT活用による校務の効率化 ～一人一台端末を活かして～
磯尾 和彦	倉吉市立小鴨小学校	教科指導におけるICT活用を推進するためのICT 教育コーディネーター
小村 亮	大山市立名和小学校	児童の情報活用能力の育成に向けた児童端末の活用 ～「わかった・できた」につながる活動と教師の指導～
白水 健一郎	鳥取県立白兔養護学校	知的障がいのある児童生徒のICT活用に関する教師 の意識と行動の変容

#### (5) パネルディスカッション

##### ＜テーマ＞「鳥取GIGA 定着・充実に向けて学校・教員はどうすべきか？」

【コーディネーター】 西田 光昭 氏

【パネリスト1】〔ICT推進地域校長〕大羽 省吾 校長（倉吉市立小鴨小学校）

【パネリスト2】〔エキスパート教員〕黒岩 健太郎 教諭（岩美町立岩美中学校）

【パネリスト3】〔鳥取県教育委員会〕宇山 慎二 係長（小中学校課）

【概要】「今年度の取組みから」「来年度へ向けて」について、実践や課題等について協議した。



【コーディネーターまとめより】

（令和3年度取組から）

○鳥取県では多様な実践が行われている。鳥取県の体制づくりからはじまり、県の資料を基に学校の体制づくり、そして授業実践につながっている。これらは、核となるICT推進地域から動き始めているので、一歩が進みやすかったと考えられる。

（令和4年度に向けて）

○〔パネリスト1〕子どもの力をよりつけるために、校長のマネジメントによる体制づくりを更に進めていきたい。

○〔パネリスト2〕どこでも学べる、家庭での学びに目を向けていきたい。

○〔パネリスト3〕活用定着期として、学習指導要領を基にICTを有効に活用した授業づくりに取り組んでいきたい。

#### 5 本研究大会全般についての視聴者の感想

- 学習指導要領の理念の実現のために、ICTを活用した学習を展開していくことを強く意識する必要があると感じました。1年目は「とにかく使ってみることに価値がある」というスタンスで実践してきましたが、2年目は前述のことを意識して取り組んでいきたいと思いました。
- 小中学校は高校より早く1人1台端末が本年度から導入され、その実践例をうかがうことができました。また、来年度入学してくる高校新1年生がどのような学習を行ってきたかを知ることができました。
- GIGAスクール構想の実現に向けた、県の教育行政の取り組みがよくわかりました。Society5.0で活躍する人材の育成には、ICT活用能力は必須のものといえますが、一方でスマホ脳とも言われる側面もあり、子どもたちに有用なツールとしてICTを活用できる力をつけさせることが、学校教育が果たすべき役割に加わったと認識しました。
- 西田先生が言われていた「トラブルにあった時にどう解決するかを学ぶことが大切」という言葉が心に残りました。タブレットを活用しようとする、つい児童が困らないようにと先回りしてしまいがちですが、社会に出た時の問題解決能力を高めるためには、こうした経験をさせることも大切だと気づきました。
- パネルディスカッションについて、実践と課題の2部構成でわかりやすかったです。校種が違うが、導入において必要な話だったと思いました。「ICTスキルが堪能な子どもを育成するのが目的ではなく、この時代、自らの生涯を生き抜く力をつける」というフレーズがありましたが、私が思っていた活用より、次のステップの次元であり、今後の利用において、生徒の自発的な活用を促せるよう努力したいと思いました。
- 今年度協力し挑戦された先生方が、時間や負担感が増えたものについて、すぐにやめてしまわず、ここを乗り越えてほしいなと思うこともありました。ここを乗り越えると、これだけ世界は広がり、変わりますよと、つまずいたときに周りの支援体制をつくっていきたく感じました。